



居場所の包括連携による全国のモデル地域づくり

地域から広がる第三の居場所 アクションネットワーク本格始動

私たちは、新型コロナ禍で社会的不利を抱える子どもや家庭がより一層不利に置かれている現状から、これまで中学校区を対象に行ってきた支援のひな型・ノウハウを市域広域に広げています。

認定NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ(代表 湯浅誠さん)が休眠預金の通常枠事業として募集した「居場所の包括連携によるモデル地域づくり・全国」。この事業では高槻市域を対象に、「つながる・食べる・学ぶ・生活を支える」をキーワードに民と民、官と民の連携による面(セーフティネット)を構築することを目的として「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」を発足しました。

ネットワークを通してできた横のつながりから市内活動団体同士の連携が実現。この度富田地区で実施してきたフードパントリーを市域に広げる「市域フードパントリーサテライト」が市内2か所で本格始動しました。

新型コロナ禍で緊急性の高い地域からはじめ、市域全域へ食の支援が広がることを目指しています。

市域全域に支援を広げる

地域から広がる 第三の居場所アクションネットワーク開催の様子

地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク【趣旨】

高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流をする中で「第三の居場所づくり」を支援・行動していくためのゆるやかなネットワークを築くためのプラットフォーム

アクションネットワーク参加者の内訳

セクター分類	団体数(団体)	参加人数(名)
市民活動団体	35	56
企業	1	3
大学・学校	8	14
宗教関係	3	3
医療関係	1	2
個人	6	6
合計	54団体	84名

(2022年2月15日現在)

11月20日にアクションネットワークを発足(座長:三木正博さん)。発足会を含めた3回の開催を経て、団体登録は54団体、ご参加いただいた方は84名になりました。

団体、企業、大学、個人のほか宗教関係者、医療関係者にもご参画いただけることになり、おかげさまで想定以上の多セクターでの横のつながりが実現しています。

ネットワーク連絡会の様子



対面とオンラインのハイブリッド開催



1月18日(火)に開催した第3回の連絡会は、新型コロナウイルス(オミクロン)の急激な感染拡大に伴いZOOMによるオンライン形式で実施しました。オンライン参加が難しい方への参加方法としてサテライト会場を設け、「コミュニティスペース Niko Niko」のほか「高槻市市民公益活動センター(協働プラザ)」、「平安女学院大高槻キャンパス」に拠点のご協力をいただきました。

連絡会では新しく加わっていただいた方々の自己紹介、団体同士の顔合わせの後、情報提供や意見交換が行われています。その中で、会の趣旨や方向性、会の機能について確認されました。

具体的な動きとしては、団体間の動きと事務局主導の動きに分かれています。団体間の動きでは、物資の交換や支援のマッチングが行われています。鍋や食器の提供は3件、子ども食堂への食材提供は1件、また会場の提供やボランティアの依頼などがすでに行われています。事務局主導の動きでは、市域フードパントリーサテライトが始動しています。

連絡会は隔月開催とし、次回は3月12日に予定しています。途中からのご参加も大歓迎ですのでぜひお問い合わせください。



会の3つの方向性

- ① 民間だからできるアクションを進めながら将来的には官庁とも協働する
- ② コロナ禍、緊急性の高い社会的不利層への支援からはじめ様々な層へ広げる
- ③ こども分野からはじめ、障がい・高齢・外国人支援分野等へ広げる

会の3つの機能

- ① ネットワーク間の顔がつながる
物の動き、人の動きがゆるやかにでき始めている。
実際にネットワークで顔つなぎができているので動きやすい、協働しやすいとの声が挙がっている。
- ② 情報交流と助け合い
連絡会だけでなくメーリングリストを通して日々さまざまな情報交流をおこなうことができる。
- ③ 支援構築に向けたアクション
協議をしながらもどんどんアクションを起こしていく場にしたい。

01 市域フードパントリーサテライトを実施 (アクションネットワーク:事務局主導の動き)

富田地域では、カフェやパン屋さんから購入したお弁当等や、企業や個人から提供いただいた食材をただいま食堂利用者やその家族、地域で必要とされる方に配布するフードパントリーを実施しています。新型コロナ禍で子ども食堂の開催が難しくなった今でも顔の見える関係性の継続、また飲食店の応援につながっています。

そして、新型コロナ禍による社会的不利層の状況の深刻化は各地域で起こっていることから、富田地域での食の支援を市域全域に広げていくためのフードパントリーサテライトの構築を開始しました。アクションネットワークによる団体同士の横のつながりにより、2箇所でのサテライト会場が始動。緊急性の高い地域から今後全体に広げていく予定です。

① 市民会館(1/29開始・毎月第四土曜日)

高槻つばめ学習会さん×グーグー藤カレーさん×天然酵母パンなかむらさん

市民会館では「高槻つばめ学習会」さんが開催する学習会に通う子どもたちとご家庭への配布。「天然酵母パンなかむら」さんからはパンを、「グーグー藤カレー」さんからはカレーが配布されました。

「美味しかった」「家族が喜んでた」との子どもたちからのコメントや、講師のみなさまから「家庭が全面的に担うことが難しい部分を、こういう方たちが支えて下さると助かりますね」「子どもたちを支援する人たちの連携ってすごいですね」という声をいただき良いスタートになったことを実感しました。



② 七中校区(1/26開始・毎週水曜日)

キヨサキあーちゃん食堂さん×のりまきのすけさん×味源さん



七中校区では柱本小学校前の「T-BOX」さんに場所をお借りして、地域の子どもたちやご家庭への配布を実施しています。「のりまきのすけ」さんと「味源」さんに毎回交代でお弁当を作っていただけることになりました。

店舗への受け取りから配布まで「きよさきあーちゃん食堂」の松岡ご夫妻が動いてくださっています。ご主人は青少年指導員や民生委員などをされており、地域の役割を担われている方がこのような活動にご協力いただけることは心強いです。

02 高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業 無事に終了

当事業は予定していた260件のご訪問を終え、訪問員実務者研修④(総括)、メンターのみなさまとの事業総括を対面形式で開催し、事業全体の総括として振り返りを行いました。

訪問員実務者研修④(総括)では「事業を通して私が学んだこと」をテーマに訪問員さんそれぞれが学び、気づいたこと、私を感じたやりがい、自らの関りを通して気づいたこと(自己覚知)、運営面の成果と課題を振り返りグループで分かち合いました。また、今後のビジョン全体も共有し全体で学びを分かち合いました。その後ベテラン保育士さんをはじめとするメンターさんと事業全体の総括を行いました。

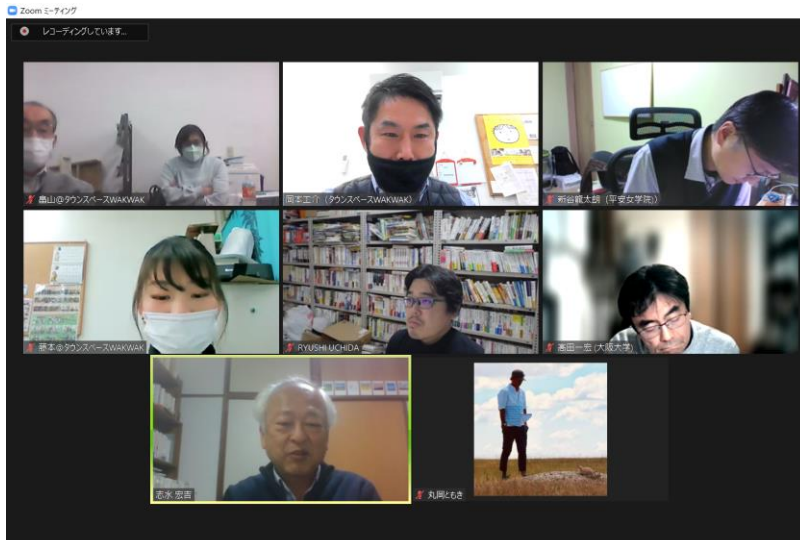
今回、メンターさんとして高槻市の保育実践や市民活動において長年支援を担ってきたベテランの方々9名、訪問員として市域全域から子育て支援に関わる子育て層の方々30名と総勢40名近くが関わっていただく中で当事業はおかげさまで一区切りを迎えようとしています。

※メンターとは：指導者、助言者のこと。

精神面のサポートも担い公私共に相談できる相手のこと。



03 学識者(第三者)事業評価を実施



「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)」と「高槻市子どもみまもりつながり訪問事業」の新規事業について学識者(第三者)による事業評価をオンライン(ZOOM)実施しました。

評価者に研究者として大阪大学大学院人間科学研究科教授・志水宏吉先生、同教授・高田一宏先生、平安女学院短大准教授・新谷龍太郎先生、関西大学社会学部教授・内田龍史先生がご出席いただきました。(関西大学文学部教授・若槻健先生、平安女学院短大助教・相良典子先生は録画配信)

04 国会議員による オンライン視察・事業プレゼン



休眠預金等活用推進銀連盟(会長:加藤勝信衆議院議員/前官房長官)による視察・ヒアリングを受けさせていただきました。タウンスペース WAKWAK は(一財)大阪府地域人権金融公社を資金分配団体とする「ひと・まち・げんき助成」に採択いただき、次年度が助成期間3年の最終年度となります。ヒアリングでは助成事業についての事業プレゼンの後、出席国会議員からの質疑応答形式が進められ、議員連盟からは約 30 名の衆参国会議員が参加いただきました。

05 『子どもと家庭を包み込む 地域づくり』発刊

京都女子大学の谷川孝至先生、岩槻知也先生からお声がけいただき、それぞれ大津「子どもソーシャルワークセンター」の理事長幸重忠孝さんや京都「山科醍醐子どもの広場」代表理事村井拓哉さん、「沖縄ももやま子ども食堂」理事長鈴木友一郎さんなどとともにタウンスペース WAKWAK における富田地区の子どもの居場所づくりについて執筆させていただいた書籍が3月に発刊されます。

みなさまぜひご覧ください。

こちらから目次などをご覧くださいませ。

(晃洋書房 HP より)



info

新規会員募集とご寄付のお願い

タウンスペース WAKWAK では、賛助会員として、またご寄付を通して活動を応援して下さる皆様に募集しております。応援いただいた方には、年に2回～3回発行しているWAKWAK 通信などを送付し活動内容をご報告させていただきます。

○賛助会員 (団体) 1万円 (個人) 1千円

※いずれも年額(1口)です。入会手続きと会費納入は同封の振替用紙をご利用ください。

○ご寄付 お振込みおよびクレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。

(編集後記)

これまでの中学校区を対象にした支援から広く市域全域へと支援対象範囲を広げました。今後、富田地域を基盤により多くの人に支援を届けていくためにもぜひ継続したご支援はもとより新たなご支援をぜひともよろしくお願い申し上げます。